

Dictionnaire Chinois, Français et Latin		
A F -96	1813	de Glemona原著 de Guignes編
ナポレオン一世の勅命によって編纂された、中国語・フランス語・ラテン語の対訳辞典。		

- ◆ 原著者のジェモーナ(de Glemona 1648-1704) はフランス人の神父。36歳で中国に渡り、57歳で亡くなるまでの間、中国での布教活動に従事した。その間、熱心に中国語を学び、1694年に最初の中国語-ラテン語辞書を完成し、さらに、1701年には第二の辞書を完成させた。この第二の辞書の手稿本、“Dictionnaire Chinois-Latin, Manuscript du P.Basile” を、ド・ギーニュ(de Guignes 1759-1845) が再編集したものが、本書である。編者のド・ギーニュは、領事として中国の広東に17年間滞在した外交官である。

ナポレオン皇帝の政府は、1801年ごろから中国語辞典の出版を計画していた。当初、外国人の学者を招いて編集を企画させたが果たせず、1808年、ド・ギーニュに編纂係を任命した。ジェモーナ神父の手書本がド・ギーニュに与えられ、3年以内に完成せよとの指示が大臣からあった。原典は中国語の発音のアルファベット順排列なので、ド・ギーニュは、発音を知らないヨーロッパ人にも引けるように、漢字の部首による画引きに構成を改め、さらに、新しい字を加える等の改訂を加えた。注目すべきことは、日本でしか使われていない「峠」とか「榊」のような類の和製漢字をいくつか収めていることである。おそらくこれは、日本の国字がヨーロッパに紹介された最初であり、ド・ギーニュ自身がそのような資料をも見ていたことを示している。本書は5年後の1813年にパリの帝国印刷局から出版された。

本書は総皮製、47×30cm、1108ページという豪華本である。標題紙は「漢 HÁN 字 TSÉ 西 SY 訳 Y」と大きく縦書きされており、その下に、フランス語とラテン語で「ヨーロッパ語に訳された中国の象形文字」との説明書きがある。次ページがメインタイトルで、タイトルの下にはフランス語で「中国語・フランス語・ラテン語 辞書ナポレオン大帝の勅命により出版」の説明が付されている。中央にはナポレオン王家の鷲の紋章が大きく入っている。

本書はドイツの東洋学者クラプロート(Klaproth 1783-1835) らによって、「原著にフランス語を加えたのみだ」との批判が加えられた。クラプロートは1819年に、原著者ジェモーナの名を冠する本書の補遺版を出版した。

*複製本、マイクロフィルムあり

<参考文献> 「ナポレオン大帝勅版・「漢仏羅辞書」の出版をめぐる人々の物語」

(『葵』18号 所収) (SZ01-3)

